

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4571900218		
法人名	社会福祉法人信愛会		
事業所名	グループホームたちばな		
所在地	宮崎県宮崎市高岡町内山2407番地3 (電話) 0985-30-9033		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年11月28日

【情報提供票より】（平成20年9月22日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成12年10月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	21 人	常勤20人，非常勤1人，常勤換算7.3人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1～2	階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	18,900 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷 金	有（ 円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（平成20年9月22日現在）

利用者人数	25 名	男性 4 名	女性 21 名
要介護1	7	要介護2	9
要介護3	5	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人高信会辰元病院、児玉歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園やコスモス畑が広がる穏やかな環境の中に、病院や介護老人福祉施設、ケアハウスや老人保健施設、デイケアなどの総合的な福祉医療が充実した大規模法人の一角にホームが併設されている。法人代表者の30年来の地域性のある取り組みから、ホームの地域での理解も深められている。ホームで暮らす利用者や家族は、ホームでのケアや併設病院の存在に安心と信頼を寄せている。また、ホームには大型犬や室内犬が利用者の心を和ませ、時には近隣と一緒に散歩するなどの楽しみもある。ホームから見える風景は季節の移り変わりが一目でき、利用者の五感も刺激を受けながら生活を楽しんでいる様子がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 地域密着型の理念は、地域の人々とのつながりの輪を強調したものになっている。運営推進会議は2か月ごとに開催されている。日常的に職員はユニット間の交流があるので、異動に際しても利用者の動揺がないように配慮されている。災害訓練は避難経路の確保や夜間想定での訓練が課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価は職員全体で話し合い、ユニットごとに作成し、評価の意義も理解できている。また、前回の外部評価についても改善すべきことについては職員全体で話し合われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 委員の構成は高齢者クラブ代表、家族代表、地域包括支援センターからなり、2か月ごとに行われている。運営推進会議のメンバーで他事業所への視察などを計画している。市の担当者や地域包括支援センターとの連携や連絡調整は随時図られており、ホームの運営やケアの推進に生かしていく取り組みができている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 利用者の様子については、担当者が随時または定期的に電話で報告するほか、金銭出納の報告も適切になされている。しかし、転倒や打撲など、家族への報告の有無、結果等が事故報告書に記載漏れがあるため、記録様式を検討していただきたい。ホームに対する意見や苦情等については、第三者委員会の設置や家族との交流遠足等で意見を出しやすい環境づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 法人自体が30数年来の地域とのつながりを大切にしており、自然体としてホームの地域との付き合いも醸成されている。地域の行事参加や交流も活発に行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は誰が見てもわかりやすく表現されており、地域の人々とのつながりの輪を強調したものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの職員が独自に作った理念であり、理念に沿った利用者支援については、毎月のカンファレンスや定例会などにより、職員相互の意思疎通が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人自体が地域とのつながりを大切にしながら、自然体としてホームの地域との付き合いも醸成されている。地域の行事参加や交流も活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で話し合い、ユニットごとに作成し、評価の意義も理解できている。また、前回の外部評価についても改善すべきことについては職員全体で話し合われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月ごとに行われており、外部評価の報告がなされ、委員からの意見も集約されている。地域代表者は高齢者クラブの代表者のみであり、他の地域代表者等の参加が少ない。	○	会議は適切になされているが、委員の構成が高齢者クラブ代表、家族代表、地域包括支援センター職員である。さらに地域の他の団体等や担当行政職員を加え、幅広い地域の意見を拾いあげさらなる地域密着を推進していただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や関係機関、地域包括支援センター等との連携や連絡体制はできている。また、福祉ネットワークや地域のケアマネジメント会議への参加も積極的である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子については、担当者が随時または定期的に電話で報告するほか、金銭出納の報告も適切になされている。	○	ヒヤリハットや事故報告書では、利用者の状況について家族への報告の記録欄が無いため、適切な報告がなされているかどうか職員間で確認できない。家族報告欄を設けるなど、確実な報告状況が確認できるようにすることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見や苦情等については、第三者委員会を設置するなどの体制ができている。また、家族参加のふれあい遠足などでの交流を図りながら、意見を出しやすい環境づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は近年では、ユニット同士の異動のみになっており、日常的に職員はユニット間の交流があるので、異動に際しても利用者の動揺がないように配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修は積極的に行われており、職員の定例会等で報告もなされている。また、人事考課制度により、職員は管理者との面談をしていくなかで、モチベーションを維持していくような取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の県央地区ブロック研修会への参加が定期的になされ、運営推進会議等の委員を含めた他の事業所への視察見学などを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の体験宿泊を行い、入居後には寄り添う時間を多く持つようにするなどの工夫により、利用者になじんでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活する意識のなかで、利用者の昔の知恵や慣習、または漬物などを教わりながら支えあいの関係づくりを築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向に沿った支援ができるように日々努めており、一人ひとりの介護サービス計画にも反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスには、ホームの職員以外に介護老人福祉施設の看護師や栄養士も参加して定期的な利用者の分析を行ったうえで、適切な介護サービス計画が作成されるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに計画の見直しを行い、適切なプランの作成がなされている。利用者や家族の意向もプランに反映されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診は原則家族対応であるが、家族の希望があれば柔軟に職員が対応している。また、家族等の緊急な宿泊など、臨機応変に対応できる体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くが併設病院が主治医となっており、緊急時の対応や定期的な受診等を受けられる体制があり、利用者・家族とも安心できる環境にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人や家族に対する終末期ケアの指針の説明と同意がなされており、併設病院との連携もできているので、ニーズがあれば対応できるように、職員間での話し合いや体制作りの研修もなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレや浴室など、周囲から見えないように仕切りカーテン等で配慮してある。また、職員も利用者に対する言葉かけなどの対応に気遣いしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時折不穏等のある利用者に対しては見守りをするなどの個別対応をしている。また、利用者の希望に沿えるように、時間を見つけて対応できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、後片づけなど、部分的な役割ができる利用者と職員が共に共同作業をしている。また、食事は職員も同じメニューを食べながら語らい、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日課として時間や回数が利用者ごとに決められているが、利用者のニーズに合わせて回数や時間の幅に対応ができる体制がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやつ作りや洗濯物たたみ、食事の準備など、利用者個別の役割がある。また、ホームで生活を共にしている犬とのふれあいも楽しみの一つである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的な行事や家族との遠足、または日常的なミニドライブでの買い物、近隣への散歩などの外出支援ができています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3ユニットとも鍵をしない取り組みの中で、利用者の尊厳を支えるケアができています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合訓練や地域消防団との連携も図られている。また、地震災害を想定した訓練もできている。しかし、ユニットごとに訓練実施回数や内容にばらつきがある。	○	ユニットすべてが、同じ訓練の内容が定期的にできるようにすることが望ましい。また、2階ユニットからの避難経路の確保についての訓練や、夜間想定での訓練を独自に実施してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士の献立により、栄養面の指導を仰いでいる。また、献立の内容を利用者の嗜好に応じて変更することもある。食事形態は利用者個別の状態に合わせて工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	円形状のホームの造りで、利用者が居室から出るとすぐにホールでくつろげるようになっている。トイレや浴室は清潔で、手すり等も設置されている。ただ脱衣所に置いてある消毒剤や洗剤等の薬剤の管理ができていない。	○	薬剤等の管理は利用者の事故を未然に防ぐためにも、利用者の目に触れにくい工夫や、手の届きにくい工夫による配慮を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者個別に、たんすやコタツ、仏壇などの持ち込みがある。利用者個別に居室作りの配慮をしている。	○	利用者の状態によって時計やカレンダーなどを持ち込めるよう配慮に期待したい。また、家族等がゆっくり会話できるような空間作りを期待したい。

※  は、重点項目。